

令和7年12月議会 福祉都市委員会報告資料

ページ

- | | |
|---------------------------------|-----|
| 1 障がい者スポーツセンターの機能強化に向けた検討状況について | … 1 |
|---------------------------------|-----|

福 祉 局

1 障がい者スポーツセンターの機能強化に向けた検討状況について

福岡市立障がい者スポーツセンター（以下、「スポーツセンター」という。）は築41年を迎える老朽化が進んでおり、大規模改修が必要な状況の中、近年の障がい者スポーツを取り巻く環境（社会的ニーズや本市の政策等）の変化に対応した機能強化を含めた整備のあり方について検討を行っているもの。

1 インクルーシブなスポーツセンターへの転換に向けた機能強化

【機能強化のあり方】

全ての障がい者がスポーツを楽しみ、挑戦し、障がいの有無に関わらずスポーツを通じた交流が生まれるインクルーシブなスポーツセンターへの転換を目指す。

【機能強化の方向性（2つの視点）】

- (1) 誰もが挑戦できる環境づくり … 体育館フロアの拡張等
- (2) 交流が生まれる場の創出 … オープンスペースの設置等

(1) 誰もが挑戦できる環境づくり

裾野拡大に向けた取組みや、スポーツを継続しやすい取組みを行うことで、障がい者のスポーツ実施率を向上させ、スポーツがもたらす楽しみや達成感により、障がい者の生活がより充実したものとなることを目指す。

参考：週1回以上のスポーツ実施率

障がい者 現在 38%（令和6年度推計）

全市民 目標値 65%（政策推進プランにおける令和10年度目標）

【取組内容】

- 教室や体験会をより多く実施することで、スポーツを始めるきっかけを作る
[現状] 令和6年度実績 教室 実施回数 96回
- eスポーツ等も取り込むなど、幅広い人の参加を増やす
- 大会が実施できる環境や人材を揃えることで、目標を持てる機会を増やす
[現状] 令和6年度実績 大会 実施回数 7回

(2) 交流が生まれる場の創出

交流が生まれる取組みや、障がい理解を広める取組みを行うことで、心のバリアフリーが広がり「みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサル都市・福岡」を実現する。

【取組内容】

- パラスポーツのネットワーク拠点施設として、地域や他施設などへ、パラスポーツ教室や体験会等のアウトリーチ活動を実施し、パラスポーツや障がい理解を広める
〔現状〕令和6年度実績 地域パラスポーツ体験 実施回数 16回
- 多様なイベントを開催することで、障がい者と健常者の交流機会を増やす
〔現状〕令和6年度実績 体験会 実施回数 2回
- 自然と人が集まるオープンな空間を作ることで、常時交流が生まれるきっかけを作る
- 産学連携等により、障がい者スポーツを取り巻く人々が集い多様な交流を育む

2 整備のあり方

機能強化の実現性や施工中の利用者への影響を検討した結果、機能強化が可能で施設休館も伴わない「移転建替」の方向で進める。

	① 現地改修	② 現地建替(ローリング有)	③ 移転建替
機能強化の実現性	✗ 土地の制約上、フロア拡張等の機能強化は困難	✗ 土地の制約上、フロア拡張等の機能強化は困難	○ 土地の条件が良ければ、機能強化可
施工中の利用者への影響	△ 【一斉改修】工期 15か月全館休館 【ローリング改修】工期 22か月のうち ・プール 13か月使用不可 ・体育館半面使用不可	△ 工期 40か月のうち ・プール 20か月使用不可 ・体育館 20か月使用不可	○ 影響なし（休館不要）
工事費等	○ 最も費用が少ない。ただし、28年後には築後70年に到達するため建替が必要	△ 現地改修より費用が大きい	△ フロア拡張等による費用が大きい

3 移転建替に向けた今後のスケジュールについて

令和8年度 基本構想

以降の具体的なスケジュールは、基本構想の中で検討していく。